

2 剣号の航海

- 花の咲かない庭の花壇のむこう  
剣号が船出したとき  
樹のかたわらで項垂れている姉さんたちが  
涙に霞んで見えました  
鉛葺きのお城の屋根も霞んでいました  
剣号が船出したとき 5
- アリシアは 深紅いガウンを着てました  
剣号が船出したとき  
アーシュラは 栗色のガウンを着てました  
霧にすっぽり包まれて  
美しい町の深紅い屋根は消えていました  
剣号が船出したとき 10
- アリシアは 緑の柎を手立っていました  
剣号が船出したとき  
アーシュラは 枯れた櫨の葉を手立っていました  
ああ でもこのわたしは  
皮を剥いだ白い小枝を持っていただけ  
剣号が船出したとき 15
- ああ 栗色と 明るい深紅のガウンを  
剣号が船出したとき 20  
姉さんたちは着てました わたしはただの白いガウン  
深紅と 栗色と 白の三色  
三姉妹 それぞれに騎士の恋人がありました  
剣号が船出したとき
- ロバート様は 大声で叫ばれました  
剣号が船出したとき 25  
「アリシア 頭が見えるうちに訊いておきたい  
お土産は何にしよう」  
「愛するお方 どうぞ赤いルビーの玉を」  
剣号は船出した 30
- 帆がまだ垂れているうちに マイルズ様は申されました  
剣号が船出したとき  
「アーシュラ 町が見えるうちに訊いておきたい

お土産は何にしよう」  
「愛するお方 茶色の鷹をお土産に」 35  
つるぎ  
剣号は船出した

でも わたしのローランド様はひと言もなく  
つるぎ  
剣号が船出したとき  
ただ お顔を背けたばかり  
短い悲鳴が わたしの口から洩れました 40  
「戻ってください 愛するお方 あなたの白い女の許へ」  
つるぎ  
剣号は船出した

暑い太陽が 庭の花壇に照りつけました  
つるぎ  
剣号が海から戻ってきたとき  
リンゴの樹の下で 三人は 45  
海にむかつて首を伸ばしていました  
かわ  
乾いたお城の屋根は 鉛色に輝いていました  
つるぎ  
剣号が海から戻ってきたとき

ロバート様は 赤いルビーの玉をお土産に  
つるぎ  
剣号が海から戻ってきたとき 50  
アリシアの髪にキスして  
「そなたの許に戻ってきた  
恋人よ さあ 二人は結婚しよう  
つるぎ  
剣号が海から戻った今こそ」

マイルズ様は 茶色の鷹をお土産に 55  
つるぎ  
剣号が海から戻ってきたとき  
背の高いアーシュラのガウンに両腕巻いて  
「おお恋人よ そなた無くして何の喜び  
この美しい町で結婚しよう  
つるぎ  
剣号が海から戻った今こそ」 60

心は沈んでゆきました もう怖くはありません  
つるぎ  
剣号が海から戻ってきたとき  
甲板には 背の高い白い女性が  
ローランド様の膝にすわって  
彼女の髪には あの方の顎が押しつけられていました 65  
つるぎ  
剣号が海から戻ってきたとき